

授業概要

本授業は実際に史料に触れ、その使用に必要な知識全般の習得を課題とする。第1～6回は、史料論とモデルケースを学ぶことで理論的な知識を学ぶ。事例としては中世の聖人伝『聖エリーザベト伝』とそれに関連する美術品を取り上げ、史料が背景となる社会、制度、文化、経済などをどのように反映しているのかを読み解く。

第7回以降は受講生が分担して史料解説を行う。解説に必要な事項を事前に調べ、検索方法と合わせて発表し、質疑応答を行う。この繰り返しを通じて史料を読む際に必要な注意点を実践的に学び、読解に多様なアプローチが存在することを理解する。

授業計画

第1回	ガイダンス：授業概要
第2回	史料分類と史料批判
第3回	史料背景の調べ方について
第4回	史料講読①：『聖エリーザベト伝』第一序文
第5回	史料講読②：『聖エリーザベト伝』第二序文
第6回	資料分析：ザンクト・エリーザベト教会（ドイツ、マールブルク）
第7回	史料読解①：ミラノ勅令
第8回	史料読解②：カール大帝伝
第9回	史料読解③：ツンフト闘争
第10回	史料読解④：95箇条の論題
第11回	史料読解⑤：百科事典
第12回	史料読解⑥：アメリカ合衆国憲法
第13回	史料読解⑦：共産党宣言
第14回	史料読解⑧：ハルフォア宣言
第15回	史料読解⑨：ヤルタ協定
第16回	筆記試験

到達目標

- ・歴史の専門用語を認識し、文脈にそった適切な意味で理解できる
- ・史資料使用に際して不可欠な基本的知識を習得することができる
- ・史資料の理解に必要な背景知識を調べる方法を習得し、実際に正確な情報を得ることができる
- ・内容を正確に読み取ることで言語コミュニケーション能力を伸ばし、国際文化理解を深めることができる

履修上の注意

様々な言語で書かれた史料の一部をテキストとして使用する。授業で使用するのは日本語訳だが、発表準備に際しては外国語の読解能力が必要となる場合がある。文法や文章表現については授業時に適宜解説を行うが、事前に「西洋史概説」を履修しておくことが望ましい。

なお、受講生の関心に合わせて取り上げる史料を変更する場合がある。

予習・復習

テキストの内容理解を深めるため、自分の担当以外にも必ず目を通し、知らない人名や用語は調べておくこと。また、専門用語については授業中に解説を行うのでノートを取って復習し、次回以降の予習に活用すること。

評価方法

筆記試験 60%、受講態度（テキストの予習状況並びに授業時の発言） 40%

テキスト

特に指定しない。資料は初回授業で配布する。